

海外安全対策情報（2026年1月～3月）

1 社会・治安情勢

(1) 最近のパキスタン情勢

ア 2025年4月、インド北部ジャンムー・カシミール準州で観光客を狙った銃撃テロが発生し、これをインド政府はパキスタンが支援する武装勢力による犯行と非難しました。これを受けて、インド軍は、5月7日にパキスタンのパンジャーブ州及びアーザード・ジャンムー・カシミール地域の複数の場所を空爆し、両国間の軍事衝突に発展したが、5月10日には停戦が実現。

イ アフガニスタンとは、2025年中、パキスタンとの国境地域における緊張は断続的に発生しており、2026年2月にパキスタン軍はアフガニスタン領内のTTPキャンプに対して空爆を実施。その後双方の応戦が続き、3月に一時停戦が合意されるも、依然として国境付近では突発的な攻撃が継続しており、実効性のある恒久的な停戦合意には至っていない。

(2) テロ等の傾向

ア 2025年中、パキスタンでは699件（2024年521件）のテロが発生し5年連続の増加となった。パキスタンのテロ発生件数は、軍及び治安機関等によるテロリスト掃討作戦により2009年以降減少傾向にあったものの、2021年以降増加傾向にある。2021年8月のタリバーンによるアフガニスタン・カブールの制圧以降、地域情勢が不安定化し、パキスタンにも大きな影響が及んでいる。2022年11月、パキスタン・タリバーン運動（TTP）がパキスタン政府との停戦協定の破棄を宣言し、その直後にバロチスタン州やイスラマバードで自爆テロが発生。2025年11月には、イスラマバードの地方裁判所の前で自爆テロが発生し、12人が死亡、36人が負傷した。また、2026年2月にもイスラマバード市内においてシーア派モスクにおいて自爆テロが発生し、少なくとも31人が死亡、169人が負傷した。

イ 1月のテロ発生件数は55件であった。テロにより180人が死亡し、64人が負傷した。

2月のテロ発生件数は53件であった。テロにより106人が死亡し、250人が負傷した。

3月のテロ発生件数は61件であった。テロにより62人が死亡し、114人が負傷した。

テロ発生件数（2025年10月～12月期）から84件増加（127件→169件）し、死者は182人増加（166人→348人）、負傷者は176人増加（252人→428人）した。

ウ 今期においては、即席爆破装置（IED）攻撃や銃撃が主要なテロの手段であり、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設を標的

と公言している勢力もある。

エ 都市部や地方の別にかかわらず、治安当局によるテロリストの拘束及び武器・弾薬等の押収が多く確認された。治安当局による精力的な取締りが行われているが、依然としてイスラマバード首都圏を含めた都市部においてもテロの脅威は存在しているものの、これらに対応すべくイスラマバード警察は治安維持に取り組んでいる。

(3) 各種デモ

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による様々なデモが行われる傾向にあり、デモ参加者の行動がエスカレートし一部が暴徒化することもある。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 銃器使用犯罪

今期においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が頻発している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器のまん延が問題となっている。

(2) その他

今期においても、違法な銃器・爆発物・薬物の押収事案が多数報じられた。

なお、以下についても引き続き注意が必要である。

ア 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバード首都圏は富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に加担する事件が時折発生している。また、家主の不在の間に家屋に侵入し、金品を窃取する事件が発生しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

イ 名誉殺人

当地では地方を中心に、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される、所謂名誉殺人が依然として発生している。今なおパキスタン社会では、毎年多くの女性が名誉殺人の犠牲になっている。また、当地では親同士が本人の意思と関係なく決めた相手と結婚させる風習が都市部で残存しており、それ起因するトラブルで結婚相手やその家族・親族等からの DV 被害の発生も問題となっている。

ウ 性犯罪及び虐待

当地では、婦女暴行を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は非常に多い模様だが、同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことが多く、被害実態は正確に把握できていない。被害者の年齢及び性別は多様で、特に子どもをターゲットにした極めて悪質な犯行も発生している。また、最近の報道によれば、イスラマバード市内居住の外国人駐在員女性が自宅の警備に従事している警備員に寝室に押し入れられ、性的暴行を受けた事件が発生したとのことであり、当地では、「自分の身は自分で守る」という意識を常に持ち、決して油断することなく、細心の注意を払うことが重要である。

エ サイバー犯罪

パキスタン連邦捜査局（FIA）サイバー犯罪部門は、SNSを通じた詐欺投資話、違法な資金取引、児童ポルノのアップロード等、サイバー領域における監視を強化している。FIAでは、違法な手段で入手した資金がマフィアの活動資金となっているとして、摘発を強化している。

オ プロの物乞い

イスラマバード首都圏では、マフィアの支配下にある物乞いが問題となっており、イスラマバード警察では摘発に力を入れている。道路上での物乞いを装って、拳銃強盗を働くケースも報告されている。物乞いに窓を開けて対応する等の行動は、犯罪者に付け入る隙を与えるため、厳に慎む必要がある。

カ 宗教上の禁忌に対する反応

2021年12月3日、パンジャーブ州シアルコートの工場において、スリランカ人マネージャーをパキスタン人従業員が撲殺し、その遺体に放火する事件が発生した。事件の発端は、宗教的禁忌（預言者ムハンマドに対する冒瀆）に起因しており、激高した多くの従業員が暴徒化した。宗教上の禁忌に十分な注意を払い行動する必要がある。

3 誘拐・脅迫事件発生情報

今期、日本人を対象とする誘拐事件は発生していない。

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件がしばしば発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な困難を伴うと共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。

4 日本企業の安全に関わる諸問題

今期においては発生していないものの近年に以下の邦人被害を含む事案が

報告されている。

(1) 邦人被害について

2024年4月19日、カラチ市内コーランギー地区において、邦人複数人が乗車する車列が襲撃される事件が発生し、邦人1人が負傷したほか、攻撃に参加したテロリスト2人及び警備員1人が死亡、警備員1人及び通行人1人の計2人が負傷した。

(2) 外国人被害について

ア 2020年12月15日、カラチ市南地区において中国人の車両にリモート爆弾が設置されたが不発だった。この中国人はレストランを所有している。同人がクリフトン地区のショッピングモールから帰宅していたところ、オートバイに乗車した2人の男が中国人車両に接触した後に逃走した。その際に爆発物が磁石で取り付けられた。

イ 2021年4月、クエッタにおいて駐パキスタン中国大使が滞在していたホテルに対するテロが発生した。さらに、同年7月14日には、KP州のダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらが乗る中国企業のシャトルバスが建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人及びパキスタン人十数人が死亡し、数人が負傷した。

ウ 2021年8月20日、バロチスタン州グワダル市において CPEC 関連事業に従事する中国人技術者を狙った自爆テロが発生し、中国人及びパキスタン人9人が死亡、複数の負傷者が出た。

エ 2022年4月26日午後、シンド州カラチ市のカラチ大学に隣接する孔子学院前で自爆テロが発生し、中国人教員3人を含む4人が死亡、2人が負傷した。

オ 2022年9月28日午後、カラチ市サダル地区にある歯科医院内で殺害事件が発生し、中国人1人が射殺され、2人が負傷した。

カ 2024年3月26日、KP州においてダス水力発電プロジェクトに従事するスタッフらを乗せた車両が建設現場に向かう途上で攻撃に遭い、中国人5人とパキスタン人1人が死亡した。

キ 2024年9月22日、KP州スワート郡で、12か国の外交官を含む代表団が、イスラマバードに戻る途中で IED による攻撃を受けた。外交官らは無事イスラマバードに戻ったが、車列を警護していた警察車両に乗車の警察官1人が死亡し、ほか5人が負傷した。

ク 2024年10月6日、カラチ市ジンナー国際空港近傍において、中国人技術者らを狙った自爆テロが発生し、中国人2人及びパキスタン人1人が死亡、複数の負傷者が出た。

(3) 総論

当地においては、活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、速やかな退去を命ぜられ、現地治安当局による安全対策がなされないまま放置され、犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続を行うことが必要である。

5 2024年4月から2025年12月までのテロ発生状況

2024年

4月	34件、死者	47人、負傷者	32人
5月	36件、死者	35人、負傷者	57人
6月	27件、死者	32人、負傷者	36人
7月	38件、死者	61人、負傷者	44人
8月	59件、死者	84人、負傷者	166人
9月	45件、死者	54人、負傷者	117人
10月	48件、死者	100人、負傷者	80人
11月	61件、死者	169人、負傷者	225人
12月	44件、死者	63人、負傷者	74人

2025年

1月	56件、死者	70人、負傷者	109人
2月	54件、死者	121人、負傷者	103人
3月	94件、死者	207人、負傷者	229人
4月	40件、死者	47人、負傷者	77人
5月	46件、死者	70人、負傷者	111人
6月	63件、死者	72人、負傷者	95人
7月	58件、死者	68人、負傷者	93人
8月	98件、死者	87人、負傷者	155人
9月	55件、死者	122人、負傷者	130人
10月	41件、死者	61人、負傷者	62人
11月	48件、死者	57人、負傷者	93人
12月	38件、死者	48人、負傷者	97人

2026年

1月	55件、死者	180人、負傷者	64人
2月	53件、死者	106人、負傷者	250人
3月	61件、死者	62人、負傷者	114人

（出典：パキスタン平和研究所「PIPS」）

6 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

1月

- 安全保障研究所センター（CRSS）の2025年次報告書によると、パキスタンが10月11日にアフガニスタンとの国境を閉鎖した後、越境テロ攻撃及び暴力関連の死傷者数が11月には前月比9%、12月には17%減少したことが明らかになった。
- 当地シンクタンクのパキスタン平和研究所（PIPS）が1日に発表した「パキスタン安全保障報告書2025」によると、2025年はテロ攻撃件数が前年比34%増加の計699件発生し、テロ関連死者数は前年比21%増加で少なくとも1,034人が死亡したと記録されている（当館注：テロ関連死者数は、機関によってそれぞれ異なる統計手法に基づいたデータを採用している可能性があり、報告書間の相違が見られる）。
- 1日、KP州パンジュグル郡グワルゴ地区で、親政府派とされる人物の自宅を武装集団が襲撃して発砲し、3人が死亡、1人が負傷した。また、バロチスタン州ジャル・マグシ郡でも武装集団がオートバイの運転手2人を射殺した。
- 1日、バロチスタン州シビ郡で、正体不明の人物がチャンキ・チョーク地区に設置した即席起爆装置（IED）が爆発し、1人が死亡、5人が負傷した。
- 3日未明、KP州バジョール郡バラングTehsilで武装勢力が警察署を襲撃し、男性1人が死亡、警察官2人を含む3人が負傷した。
- 4日、KP州ラッキー・マルワット郡のDil Begu Khelで正体不明の武装集団が勤務中の警察官に発砲し、警察官3人が殉職した。
同州バンヌー郡のKashfi Khelで、正体不明の襲撃者が発砲し警察官1人が殉職した。
- 4日、KP州北ワジリスタン郡Mirali townにある私立学校に対してドローンが爆発装置を投下し、校長を含む3人が負傷した。
- 5日、KP州ラッキー・マルワット郡でセメント工場に向かう従業員を乗せたバスがTTPの攻撃の標的とされ、IEDの爆発で少なくとも労働者1人が死亡、11人が負傷した。
- 5日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡パニアラTehsilで正体不明の武装集団が警察署付近で発砲し、警察官1人が殉職した。
- 5日、バロチスタン州パンジュグル郡で辺境警備隊（FC）車両が標的とされたと見られるIEDが爆発し、民間人1人が死亡、16人が負傷した。
- 公式データによると、2025年はKP州全体でテロ攻撃件数が急増し、バンヌー郡が最も影響を受けた地域となった。前年から136%増加して計1,588件のテロ事件が報告された。治安情勢の専門家は、その要因として連邦政府と州政府の対テロ対策の不一致と協力の欠如を挙げ、対ドローン攻撃対策が不可欠であると述べた。
- 6日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilでテロリストが警察官1人を誘拐した。
- 6日、KP州ラッキー・マルワット郡における治安作戦中に銃弾を受けた警

察官1人が殉職した。

- 7日、KP州バンヌー郡で、ラホールに帰宅途中のパキスタン水利電力開発公社（WAPDA）の技術者がテロリストに誘拐され、解放条件として身代金5000万ルピーを要求された。
- 7日、KP州バンヌー郡で正体不明の武装集団による発砲で警察官1人及び3歳の息子が負傷した。
- 8日、ハーフィズ・グル・バハードゥルTTP代表は公開音声メッセージの中で、外国人戦闘員（特にアフガン人）をパキスタンでの戦闘のために募集し配備することを避けるようTTPの指揮官たちに促し、この指示に違反した場合深刻な結果が生じると警告した。この動きは、パキスタンが直面するTTPのテロの脅威がパキスタンの国内問題だと主張するタリバーン暫定政権の立場に反しているように見られる。
- 8日、バロチスタン州警察のCTDの警察副総監（DIG）は、テロリストがバローチ団結委員会（BYC）のプラットフォームを利用して若者をテロ組織のネットワークに勧誘していると主張した。
- 8日、KP州バンヌー郡で、法廷審理のために同郡中央刑務所からハングー郡に囚人を移送中の警察車両がテロリストの攻撃を受け、少なくとも警察官3人が負傷した。
- 9日、KP州、バロチスタン州及びパンジャーブ州の境界沿いに位置するパンジャーブ州Taunsaで、公立女子学校を標的としたIEDが爆発し、学校の一部が損壊した。
- 9日、KP州バジョール郡Lowi Mamund Tehsilで武装勢力による発砲を受けて警察官1人が殉職した。
同日、KP州南ワジリスタン郡南部のワナ地区で遠隔操作爆弾が爆発し、JUI-F指導者である神学校の校長が負傷し、翌日搬送先の病院で死亡した。
- 9日、KP州オラクザイ郡で、テロリストが50歳の男性を政府側から派遣されたスパイであると疑い銃撃し、同男性は死亡した。
- 8日、KP州ペシャワールのRegi警察署管内でテロ対策局（CTD）職員が身元不明のオートバイ乗りに銃撃され殉職した。また、同日夜、KP州バジョール郡War Mamund TehsilでCTD職員が身元不明の人物に銃撃されて殉職した。
- 10日、バロチスタン州カッチ郡ダーダルTehsilで、カッチ郡長（Deputy Commissioner）事務所の職員が正体不明の武装集団に銃撃されて死亡した。
- 10日、KP州バジョール郡で、正体不明の武装集団による銃撃で警察官1人が死亡した。同州デラ・イスマイル・カーン郡パハルプールTehsilでは帰宅途中の弁護士が正体不明の武装集団に銃撃されて死亡した。
- 10日、KP州バジョール郡にあるムバラク・ゼーブ・カーン部族問題担当首相特別補佐官（下院議員）の住宅が正体不明の者達による手榴弾攻撃を受けたが、死傷者は出なかった。カーン同補佐官の住宅に対する攻撃はこれで4度目となる。

- 12日、KP州タンク郡で装甲車両を狙った爆弾攻撃が発生し、警察署長（SHO）1人を含む警察官7人が殉職した。
- 12日、KP州北ワジリスタン郡ミランシャーTehsilのMal Mandi Sarai Daroakhelで正体不明の武装勢力による銃撃で男性1人が死亡した。また、同地区で地元の店主が正体不明の武装勢力による銃撃を受けて死亡した。
- 12日、KP州オラクザイ郡Yakh Kandaoで銃撃戦が発生し、少なくとも平和委員会の会員2人が死亡、武装勢力の3人が殺害された。
- 13日、KP州バンヌー郡で正体不明の武装集団による車両襲撃を受けて平和委員会の会員4人が死亡した。
- 13日、KP州バジョール郡 Khar Tehsilで正体不明の武装集団による銃撃で1人が死亡、1人が負傷した。
- 14日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilでイスラマバードに患者を搬送中の民間救急車に対して正体不明の武装集団が発砲し、患者に同行していた3人が負傷した。
- 近年、KP州南部（デラ・イスマイル・カーン郡及びバンヌー郡等）では警察官に対するテロ攻撃が増加傾向にあり、2023年以降は500人以上の警察官が殉職している。2025年のテロ攻撃回数は2024年と比較して48%増の536回発生した。
- 15日、バロチスタン州ナシラバード郡デラ・ムラド・ジャマリTehsilで、正体不明の男に銃撃され男性1人が死亡した。また、同州シビ郡では女性教師1人が何者かに銃撃されて死亡した。
- 20日、KP州バンヌー郡メタキ・ベイザンケル・タジリ地区で警察とテロリスト達の間で銃撃戦が発生し、警察官1人が殉職した。

1日、同郡ドメルTehsilボディーンケル地区で、少年2人が遊んでいた玩具に似せた物が爆発し、2人が負傷した。

また、同日、数日前にドメル・スペルカ・チョークでテロリスト達によって拉致された4人のうちの1人が無事に保護された（先に3人は解放されたが、同1人はテロリスト達に拘束されていた）。
- 21日、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilでクウッドコプターによる攻撃により爆発物が住宅地を直撃し、子ども3人を含む8人が負傷した。
- 23日夜、KP州デラ・イスマイル・カーン郡のクレーシー・モール付近にある平和委員会のメンバーの住宅で結婚式が行われていた際に自爆テロが発生し、平和委員会のリーダーを含む7人が死亡、7人が負傷した。
- 25日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilのコロニーで身元不明武装した男性2人からの襲撃を受け、平和委員会のリーダー1人が死亡、同人の従兄弟1人が負傷した。
- 28日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ショール・コート地区で発生した2つの武装集団間の銃撃戦に巻き込まれ、陸軍中佐1人が殉職した。
- 28日、KP州バジョール郡ワル・マムンドTehsilのザガ・デリ・セビ・バザール付近でIEDが爆発し、男性1人が死亡した。

同日、同州南ワジリスタン郡南部ワナTehsil郊外のパト・ナイ山岳地帯で遊んでいた子ども達がIEDを踏んでしまい、2人が重傷を負った。

- 29日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilスペルカ地区及びコトカ・アクバル・アリ・カーン地区で治安部隊は作戦を開始し、司令官を含むテロリスト5人を殺害、少なくとも7人を負傷させた。また、この作戦により民間人3人が死亡、4人が負傷した。
- 29日、KP州南ワジリスタン郡北部マキン・バザール付近の建設中の検問所が身元不明の武装集団に襲撃され、建設作業に従事していた労働者2人が重傷した他、4人が拉致された。
- 29日、KP州コハート郡バリー・ティング地区で地方議員1人が身元不明の武装集団に射殺された。
- 31日、バロチスタン州クエッタ郡、マストウング郡、ノシュキ郡、チャガイ郡ダルバンディン、カラン郡、パンジュグール郡、ケチ郡タンプ、グワダル郡及び同郡パスニ周辺で同時多発テロが発生し、カラン郡とグワダル郡で民間人18人が死亡した。これを受け、治安部隊は掃討作戦を実施し、自爆テロ犯3人を含む92人のテロリストを殺害した。同作戦中に治安要員15人が殉職した。
- 30日、KP州バンヌー郡ドメルTehsil隣接での警察と治安部隊による合同作戦は3日目に突入した。警察は継続中の作戦中にブルカを着用して逃走を試みた容疑者1人を殺害した他、別の捜索活動中に治安部隊はテロ容疑者1人の遺体を発見した。
- 31日、KP州南ワジリスタン郡北部サラログTehsilウェシュタナイ地区で地雷が爆発し、子供2人が負傷した。

2月

- 1日、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilゼラキ村で治安部隊とミリタント達の間で銃撃戦が発生し、民間人1人が死亡、数人が負傷した。
- 1日、ブグティ・バロチスタン州首席大臣は記者会見で、同州全域で発生したBLAによる攻撃を受け、40時間の間でテロリスト145人を殺害した旨述べた。同州首席大臣によれば、法執行機関職員17人（警察、FC及び海軍関係者を含む）が殉職し、民間人の死傷者は31人に達した。また、同州首席大臣は印調査分析局（RAW）がテロを支援していると非難し、当局は「確固たる状況証拠」を持っていると述べた他、アフガニスタンからの米軍撤退後に残された武器が市場に拡散し、テロリストに供給されているとも主張した。
- 当地英国、米国、EU、フランス及びイラン大使館等が今般バロチスタン州同時多発テロを非難した。
- 1日夜、バロチスタン州クズダール郡ワドでバロチスタン民族党メンガル派（BNP-M）の地元指導者がオートバイに乗った武装集団に銃殺された。
- 1日、KP州ラッキー・マルワット郡アンガリ・ホテル付近で身元不明の武装集団からの標的攻撃を受け、元警察官が死亡した。

- 2日、バロチスタン州内の同時多発テロを受けて各地で開始された掃討作戦で、治安部隊は新たに少なくとも22人のテロリストを殺害し、過去3日間でテロリスト177人が殺害された。

3日、同州におけるテロリスト掃討作戦により殺害されたテロリストは197人に上った。
 - パキスタン紛争安全保障研究所（PICSS）によれば、2025年12月に暴力事案が顕著に減少したが、2026年1月の戦闘関連死者は43%増加し、テロリスト242人、民間人73人及び治安要員46人が死亡、テロリスト12人、民間人少なくとも71人及び治安要員52人が負傷した。テロ攻撃数は12月の68件から28%増加し、1月は87件を記録した。
 - 2日夜、KP州北ワジリスタン郡ミール・アリTehsilカディ村で身元不明の武装集団からの襲撃を受け、警察官1人が殉職した。
 - 3日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡パロアTehsilでパロア警察署及び隣接する銀行支店が身元不明の重武装したテロリスト20～25人からの攻撃を受けたが、警察官達が即座に撃退した。銃撃戦で銀行の警備員1人が軽傷を負った。
 - 4日、KP州ラッキー・マルワット郡セライ・ノーラング・タウンのナセルケルの自宅で警察官1人がテロリスト達から誘拐され、自宅に放火された後、クーラム川沿いの森林地帯で殺害された。
 - 5日、治安部隊は先般のバロチスタン州同時多発テロ事案を受けて開始された掃討作戦「Operation Raddul Fitna-1」を終了し、テロリスト合計216人を殺害した。これらの作戦中、女性や子どもを含む民間人36人が死亡、治安要員・法執行機関要員22人が殉職した。

同州政府報道官によれば、ほとんどの地域は制圧されたが、クエッタでは捜索・掃討作戦が続いており、少なくとも容疑者100人が逮捕された。
 - 5日、KP州バンヌー郡ジャニケル地区で部族の長老1人が身元不明の者達により銃殺された。
 - 5日、KP州スワート郡カバルTehsilにあるゴミ捨て場で爆発物が爆発し、子ども1人が死亡、もう1人が負傷した。
 - 6日、バロチスタン州チャマン郡ログニ3でオートバイに乗ったテロリスト達がポリオ・ワクチン接種チームに発砲し、チームを護衛していた警察官1人が殉職した。
 - 6日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ムヤリ地区ナジラバードで警察官1人が身元不明の武装集団からの発砲を受け、殉職した。

同日、同州コハート郡ペシャワール・バイパス沿いのボナ・ババ・スクエア付近で身元不明のオートバイ乗り達からの攻撃を受け、警察官1人が負傷した。
- 【イスラマバードのシーア派モスクにおける爆発事案】**
- 6日、イスラマバードのタルライ地区にあるシーア派モスク Qasr-i-Khadijatul Kubraで礼拝中に自爆テロが発生し、少なくとも31人が死亡、

169人が負傷した。予備調査では、自爆テロ犯はイスラム国（IS）と繋がりが
あり、アフガニスタンに数回渡航していたことが示唆された。

チョードリー内務担当国務大臣は記者団に対し、パキстанは自国で発生す
るテロがインドによって支援されているという証拠を近隣諸国を含む世界と
共有していると述べるとともに、パキстанはアフガニスタンに対しテロリ
ストに居場所を与えず、インドの代理人にならないよう繰り返し要請してき
たと述べた。ハワージャ国防相もこの卑劣な行為の背後に近隣諸国があると
非難し、「インドとアフガニスタンの共謀が明らかになりつつある」と述べ
た。

- 7日、ナクビ内相は記者会見で、KP州で夜通し行われた強制捜査で自爆テ
ロ事案（死者数は36人に増加）の首謀者（ISと関連するアフガン人）を含む
共犯者4人が逮捕された旨発表し、ISのネットワーク全体が壊滅した旨述べ
た。情報筋によれば、強制捜査で自爆犯の母親と他3人が逮捕された他、銃
撃戦で副警部補（ASI）1人が殉職、治安要員3人が負傷した。
同日、ISがテレグラムで犯行声明を発出した。
- 5日、KP州ランディ・コタルTehsilで兵士達を訓練していた陸軍将校1人
がクワッドコプターによる攻撃で死亡した。
- 1月31日に発生したバロチスタン州内同時多発テロ事案を受けて開始され
たFC及び警察による治安作戦で、容疑者約180人が逮捕され、大量の武器弾
薬が押収された。
- 7日、KP州ハンゲー郡で巡回中の警察車両が身元不明のテロリスト達から
の発砲を受け、警察官1人が負傷した。
- 8日、バロチスタン州クズダール郡ナール地区のハルナイ・ダムで武装集
団からの発砲を受けJUI-Fの地元指導者を含む3人が死亡、2人が負傷し
た。
- 8日、KP州南ワジリスタン郡北部ボヤ地区で身元不明の武装集団からの銃
撃を受け、警察官1人が殉職、彼の父親と兄弟1人が重傷を負った。
7日、同州バンヌー郡ワジールTehsilのコニアケル検問所がテロリスト達
からの発砲を受け警察が反撃したが、銃撃戦で警察官1人が負傷した他、バ
ンヌー郡とデラ・イスマイル・カーン郡を結ぶ道路でミラケル警察が殺害さ
れた人物の遺体を病院へ搬送していた際にオートバイに乗った武装集団から
の発砲を受け、警察官1人が負傷した。
- 8日、KP州ラッキー・マルワット郡バラギ地区で非合法組織の上級司令官
が身元不明の武装集団に射殺された後、遺体に火をつけられた。
- イスラマバードの病院のデータによれば、6日に発生したシーア派モスク
における自爆テロ事案による死者数は9日までに38人に達した。
- 8日夜、KP州バンヌー郡ガンディ・サーヒブ・カーン地区の自宅付近でペ
シャワール高裁バンヌー郡支部の職員が武装集団からの銃撃を受け負傷し
た。
8日に同州ラッキー・マルワット郡タビ・ムラド地区でテロリスト達に拉

致されていた警察官1人が9日に釈放された。

- 11日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡ワンダ・ブドゥ地区で捜査活動を行っていた警察とテロリスト達の間で銃撃戦が発生し、警察署長を含む警察官4人が殉職、職員2人が負傷した。

同日、同州バンヌー郡ワジールTehsilでテロリスト達はコニアケル検問所を占領しようとしたが、警察は速やかに報復しテロリスト3人を殺害、9人を負傷させた。

- 11日、バロチスタン州政府はバシール・ゼーブ・バローチ解放軍 (BLA) 代表やマジード旅団の司令官等を含む「最重要指名手配テロリスト」39人の氏名及び写真等をクエッタの主要紙に掲載し、逮捕につながる情報提供者に報奨金を提供する旨発表した。
- 12日、ギルギット・バルチスタン地域ディアメールのタンギール溪谷でIEDが辺境開発機構 (FWO、軍系国営企業) の車両付近で爆発し、FWOの運転手1人が殉職、陸軍少佐を含む3人が負傷した。
- 12日、KP州ラッキー・マルワット郡タクティ地区のサッカー場でテロリスト達によるクワッドコプター攻撃を受け、少年8人が負傷した。
- 13日、KP州ラッキー・マルワット郡タクティケル地区でテロリスト達が操縦するクワッドコプターによる攻撃で警察官2人が負傷した。これを受け、同郡及びバンヌー郡から対ドローン技術と装甲兵員輸送車を備えた追加部隊が現場に派遣され、襲撃犯の捜索を開始し、警察はクワッドコプターを追撃した。この作戦によりテロリスト複数人が負傷したとされている。
- 13日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡クラチTehsilロリ地区で治安部隊は封鎖・捜索作戦を実施し、銃撃戦でテロリスト3人を殺害、3人を負傷させた。
- パンジャーブ州CTDは1か月間に様々な地域で286件のIBOを実施し、286人の容疑者を尋問した結果、TTP等のテロリスト26人を武器、爆発物及びその他の禁止物質と共に逮捕した。
- 14日深夜、KP州バジョール郡ワル・ムハンマドTehsilで警察署がテロリスト達からの襲撃を受け、現場の警察が撃退したが、警察官1人が殉職した。
- 15日、バロチスタン州クエッタ市クダ・イ・ダド・ロードの牛乳店にオートバイに乗った身元不明の者達が手榴弾を投げつけ、2人が負傷した。
- 15日、KP州バジョール郡サラルザイTehsilで子ども達が遊んでいた迫撃砲弾が爆発し、子ども1人が死亡、8人が負傷した。
- 16日、KP州シャングラ郡マルトゥングTehsilカバルグラム地区で捜索・掃討作戦を行っていた警察隊がテロリスト達から襲撃され、警察官3人が殉職した。警察は迅速に報復し、テロリスト2人を殺害した。

同日、同州バンヌー郡ミルヤン警察署付近でIEDが爆発し、2人が死亡、少なくとも17人が負傷した。
- シンド州レンジャー部隊とCTDはカラチのチャクラ・ゴート地区で共同作戦を実施し、BLAの容疑者3人を逮捕するとともに、爆発物等を押収した。

- 16日、KP州バジョール郡でTTPのテロリスト達が治安部隊と法執行機関の共同検問所へのテロ攻撃を企て検問所を突破しようとしたが、治安部隊は反撃しテロリスト12人を殺害した。追い詰められた犯人達は爆発物を積んだ車両を外周壁に衝突させ、治安要員11人が殉職した他、爆発は周辺住宅にも影響し、少女1人が死亡、7人が負傷した。
- 17日、KP州バンヌー郡ワジールTehsilサルガジ地区で身元不明の者達が検問所を襲撃し、連邦警察隊 (Federal Constabulary) 隊員2人が負傷した。
- 17日朝、シンド州カラチのシャー・ラティーフ・タウンでCTDはテロリストの隠れ家の強制捜査を実施し、銃撃戦が発生した。BLAのテロリスト容疑者4人が共犯者からの発砲により死亡した他、CTD職員2人も負傷した。
- 18日、KP州デラ・イスマイル・カーン郡でヤリク警察署及び税関検問所がテロリスト達からの襲撃を受け、治安要員2人が殉職、3人が負傷した。当局によれば、犯人達は逃走する際に税関職員1人を拉致した。
- 18～19日夜、KP州ラッキー・マルワット郡で治安部隊はIBOを実施し、TTPのテロリスト4人を殺害した。
- 19日、KP州タンク軍SMA警察署管内で治安部隊の検問所がクワッドコプターによる攻撃を受け、民間人3人が負傷した。
- 19日、KP州バンヌー郡ネバダ地区付近で身元不明のオートバイ乗り達からの発砲を受け、警察官1人が負傷した。
- 20日、KP州バンヌー郡のFCダリョバ・ラインにある警備施設がクワッドコプターによる攻撃を受け隊員8人が負傷した。
- 21日、KP州バンヌー郡で自爆テロ犯を含むTTPのテロリストの存在が報告され、治安部隊はIBOを実施し、テロリスト5人を殺害した。追い詰められたテロリスト達は爆発物を積んだ車両を治安部隊の車列の先頭部に衝突させ、中佐を含む治安要員2人が殉職した。

同日、同州デラ・イスマイル・カーン郡シェイク・ユーサフ・ケマ・バスティ地区でCTDは強制捜査を行い、女性自爆テロ犯の容疑者を逮捕した。

同日、同州ハイバル郡ティラー溪谷のエンドラ・アカケル地区で走行中の車両に迫撃砲弾が命中し、少なくとも3人が死亡、7人が負傷した。
- 22日、バロチスタン州クズダール郡ムラ地区で、武装集団が建設会社のキャンプに押し入り、プロジェクトマネージャーを含む労働者11人（うち6人はシンド州出身、5人は地元州民）を拉致した。同日、同州バルカン郡ドラ・ナディ地区で30人以上の武装集団が砕石プラントを襲撃し、プラントを破壊した後、労働者3人を拉致して逃走した。
- 22日、パキスタン政府はアフガニスタンのナンガハール県及びパクティカ県のテロリスト・キャンプと隠れ家を夜間に空爆したと発表した。当局者によると、この空爆でテロリスト80人が死亡した。
- 22日、KP州バンヌー郡で、拘束中のパキスタン・ムジャヒディーン連合 (IMP) の司令官を追加尋問のため移送していた際に同司令官の共犯者達がCTD部隊に対して待ち伏せ作攻撃を行い、銃撃戦で同司令官を含むテロリス

ト2人が死亡した。

- 23日、KP州カラク郡ゴル・バンダ・ダム付近で、同日朝にダルガ・シャヒダーンにある拠点がクワッドコプターによる攻撃を受けたため負傷した連邦警察隊員4人を搬送していた救急車2台がテロリストの待ち伏せ攻撃を受け、連邦警察隊員3人が殉職、救助隊員3人が負傷した。
- 23日、KP州ラッキー・マルワット郡パハルケル・パッカ地区で、19日にテロリスト達に拉致された10代の少年の遺体が発見された。
- 24日、パンジャーブ州バッカル郡ダジル検問所付近で自爆攻撃が発生し、警察官2人が死亡、1人が負傷した他、通行人3人も負傷した。
同日、KP州コハート郡シャカルダラ・ロード付近で、法廷出廷のため2人を移送していた警察車両がテロ攻撃を受け、警部（DSP）を含む警察官6人が殉職し、移送中の1人も死亡した。
同日、同州南ワジリスタン郡南部ワナTehsilムガルケル村で身元不明の者達からの銃撃を受け警察官1人が殉職した。
- 24日、首相報道官（外国メディア担当）は、アフ・パク国境沿いのKP州ハイバル郡のトルハム及びティラー渓谷でタリバーン暫定政権が一方向的に発砲を開始したと非難する旨Xに投稿した。
当局者によれば、同郡バザール・ザカケル地区のウラガ・サル、マロ・サル及びシャーコート・サルの複数地点でアフガン軍が突然の越境家攻撃を行ったが、国境警備隊は効果的に鎮圧した。
- 25日、アフ・パク国境沿いのバロチスタン州チャマン郡チャマン・タウンのロガニ・ロードでFCの車両が身元不明のテロリスト達からの発砲を受け、FC隊員3人が殉職、1人が負傷した。
同日、KP州バジョール郡カルTehsilナワイ・カリ地区でアバビル警察のパトロール部隊が身元不明の者達からの発砲を受け、警察官4人が殉職、2人が負傷した。
24日深夜、イラン国境付近のバロチスタン州ケチ郡ブレダTehsilミナズ村で武装集団が住宅を襲撃したことを受け、住民との間でロケット弾も伴う激しい銃撃戦が発生し、襲撃犯1人を含む6人が死亡、4人が負傷した。
- 26日、アフ・パク国境沿いのKP州ハイバル郡トルハム及びランディ・コタル付近の複数の地点でアフガン・タリバーンが発砲を開始したことを受け、パキスタン軍は「真実のための報復」作戦（Ghazab Lil Haq, Wrath for the Sake of Truth）を実施した。国営放送PTVニュースによると、アフガン・タリバーン戦闘員58人が死亡、100人以上が負傷した。また、ターラル情報相によると、任務中にパキスタン軍兵士2人が殉職し、3人が負傷した。バジョール郡ロウィ・マムンドTehsilでは、アフガン側の砲撃により3人の女性を含む5人が負傷した。
- 26日、バロチスタン州スラーブ郡付近のクエッターカラチ国道で、警察の装甲車両が渡っていた橋がテロリスト達により爆破され、警察官1人が殉職した。

- 26日、KP州ハイバル郡ランディ・コタルTehsilスルタンケル地区で身元不明の武装集団による発砲を受け、警察官1人とその息子が死亡した。
- 27日、アフガン・タリバーン軍が原始的なドローンを使用し、国内各地を攻撃した。KP州バンヌー郡ミールバズ・バルカザイ地区でモスクがクワッドコプターによる攻撃を受け、5人が負傷した他、スワビ郡の山岳地帯ガドゥン・アマザイのパビニ村の女学校付近でもドローン攻撃が発生し、少なくとも女子生徒1人が負傷した。これを受け、国内のほぼ全域であらゆる種類の無人航空機（UAV）の飛行が禁止された。
- 28日、KP州ペシャワール市のバドベル警察署内に手榴弾が投げ込まれ、警察官1人が負傷した他、スラ・カウラ警察検問所が攻撃され、警察官1人及び民間人6人が負傷した。警察によると、ペシャワール市郊外で相次いだ襲撃はマスードTTP代表がアフガン・タリバーンを守るためパキスタン国内への攻撃を戦闘員に呼びかけたことが引き金となった。
- 27日、KP州バンヌー郡で数か月前に拉致されたFCの兵士1人が無事救出された。
- 1日、ハメネイ・イラン最高指導者が暗殺されたことを受け全国で激しい抗議運動が発生し、少なくとも19人が死亡、100人以上が負傷した。
カラチの米国総領事館外での衝突で10人が死亡し、全域で発生した抗議活動で96人が負傷した他、イスラマバードでは外交団地区付近で発生した法執行機関職員との衝突により、少なくとも2人の抗議者が死亡、30人以上が負傷した。また、ギルギットでの抗議活動では少なくとも7人が死亡した。ギルギットとスカルドゥでは、抗議者達が国連インド・パキスタン軍事監視団（UNMOGIP）事務所に放火した。
- パキスタン紛争安全保障研究所の月次統計によると、2月のパキスタンにおける戦闘関連の死者は前月比30%増の470人（民間人96人、治安要員80人及びミリタント294人）を記録し、負傷者は333人（民間人259人、治安要員50人及びミリタント24人）に上った。治安要員の死者は74%増、民間人の死者は32%増、武装勢力の死者は21%増となった。
- 28日、KP州タンク郡のメイン・バザール付近で身元不明の武装集団からの発砲を受け、警察官1人が殉職した。

3月

- 1日、KP州バンヌー郡ミアンワリケル地区で検問所がクワッドコプターによる攻撃を受け、警察官2人が負傷した他、同郡ジャンケルのサルディケル地区の検問所もドローン攻撃を受け、警察官1人が負傷した。
- 1日夕方、KP州バンヌー郡で元パシュトゥーン学生連盟（PSF）活動家の男性1人がテロリスト達に拉致され、後に殺害された。
- 米当局者2人は、1日にシンド州カラチにある米国総領事館が襲撃された際米海兵隊がデモ隊に発砲した述べた。同2人は、初期情報に基づき、海兵隊が発射した弾丸が誰かを撃ったか、あるいは殺害したかは不明であり、ま

た、民間警備員や地元警察を含む領事館を警護する他の者達も発砲したかどうかは把握していないと述べた。

- 2日深夜、KP州タンク郡ムラザイ警察署がテロリスト達からの襲撃を受け、警察官1人が殉職した。
- 6日、KP州北ワジリスタン郡のバンヌー・ミランシャー・ロード沿いのチャシュマ・サルバンドキ検問所付近で、車両を使った自爆攻撃と見られる爆発が発生し、民間人1人が死亡、治安要員2人を含む19人が負傷した。
- 7日、KP州南ワジリスタン郡南部ワナTehsilのルスタム・バザールにあるスーパーマーケットのメインゲートでIEDが爆発し、警察官2人が殉職、警察官4人と民間人18人が負傷した。
同日、同州ラッキー・マルワット郡セライ・ノーラングTehsilで駐車中のオートバイに仕掛けられた爆発物が爆発し、2人が死亡、10人が負傷した。
- 8日、バロチスタン州クエッタ市キリ・イスマイル地区で同州CTDの上級警察官がオートバイに乗った武装集団からの発砲を受け、殉職した。
- 9日、当地米大使館は11日及び13日に予定されている大規模な宗教行進（Youm-i-Ali及びYoum Al Quds）に鑑み、全米国人職員の移動を制限する旨を発表した。
- 9日深夜、KP州ラッキー・マルワット郡セライ・ノーラングTehsilのマーケットで警察パトロール隊が身元不明のオートバイに乗った武装集団からの発砲を受け、通行していた民間人1人が死亡、警察官1人が重傷を負った。
- 10日、昨年10月22日にバロチスタン州クズダール郡モラTehsilで世界銀行が資金援助する水路建設プロジェクトに従事していた際に武装集団に銃を突きつけられて拉致された建設会社の労働者10人及びマネージャー1人が救出された。
- 10日、KP州ラッキー・マルワット郡タクティケル地区でテロリストによるクワッドコプター攻撃が発生し、子供3人が負傷した。
- 11日、KP州バンヌー郡ドメルTehsilナラ・カシュで警察部隊がクワッドコプターによる攻撃を受け、通行人1人が負傷した。
同日、同郡コトカ・ヌール・ジャン・マンディ地区で警察官の15歳の息子が身元不明の武装集団に拉致された。
- 13日、KP州ラッキー・マルワット郡ビタニTehsilでパトロール中の警察車両がテロリスト達によるIED攻撃を受け、SHOを含む警察官7人が殉職、1人が負傷した。
- 13日、KP州バンヌー郡バカケルTehsil国内避難民キャンプを警備する検問所がテロリスト達に襲撃され、警察官1人が負傷した。
- 13日、KP州バジョール郡ワル・マムンドTehsilで、前12日にダマドラ地区付近で拉致された警察官1人の遺体が発見された。
- 13日深夜、KP州ハイバル郡ランディ・コタルTehsilで警察官1人が襲撃者に狙われ殉職した。
- 15日、バロチスタン州グワダル郡ジワニTehsilの検問所がオートバイに乗

った身元不明の武装集団からの襲撃を受け、パキスタン沿岸警備隊（PCG）隊員2人が殉職、1人が負傷した。

- 16日、バロチスタン州ドゥキ郡ナルハンで治安部隊の車両を狙った路肩爆弾により少なくとも5人の準軍事組織隊員が殉職、1人が負傷した。
- 18日、バロチスタン州クズダール郡で治安部隊により逮捕された自爆テロを企てようとした女性がクエッタでブグティ同州首席大臣等と記者会見に臨み、TTPに勧誘されテロ行為を行うよう精神的に洗脳された後、バローチ解放軍（BLA）に引き渡されたと述べた。
- 警察によれば、先日KP州アッパー・ディール郡ガンディガルのマノ・バンダ地区でエリート部隊の副警部補（ASI）1人が身元不明の武装集団により射殺された。
- 18日、KP州北ワジリスタン郡の国境地帯マワーズ・カレイでパキスタン軍はアフガン・タリバーン及びTTPのテロリスト達の大規模なパキスタン領への侵入企てを阻止し、アフガン・タリバーン数名を殺害した。
- ドローンが迎撃される事件が相次いだことを受け、19日、パンジャーブ州政府はラワルピンディ県における無人航空機の迎撃のため同州民間防衛局（Civil Defence Department）に対ドローン砲を引き渡した。同州内務局は同州全域の民間防衛部隊にも同様のシステムを配備し、ドローンや類似の航空機に対抗する計画を立てている。
- 22日に経済平和研究所（IEP）が発表した「2026年世界テロ指数」でパキスタンは初めて1位となり、2025年のテロ関連死者数は前年比6%増の1,139人を記録した。
- 22日、KP州クーラム郡パラ・チャムカニ地区で迫撃砲弾が着弾し、1人が死亡、3人が負傷した。
- 23日、KP州バンヌー郡バカケルの国内避難民キャンプで警察官1人が身元不明のテロリスト達に銃撃され、重傷を負った。
- 23日、KP州南ワジリスタン郡南部ビルマールTehsilアザム・ワルサック・ダラブライ地区の自宅付近で部族長の家族が身元不明の武装集団からの発砲を受け、アフガン人ドライバーを含む3人が死亡、3人が負傷した。
- 24日、KP州オラクザイ郡ガルジョ・バザールでの大規模な作戦中に、治安部隊と地元警察はISIS-Kと関係すると見られる外国人2人を逮捕した。2人はアゼルバイジャン人と報じられている。
- 25日、前日にKP州シェイク・アタル・アダで身元不明の武装集団に拉致された警察官1人が死亡しているのが発見された。
- 26日、バロチスタン州でカラチからクエッタへ向かう旅客バスが身元不明の武装集団に襲撃され、研修中のCTD職員1人が連れ去られた後殺害された。また、同州クズダール郡ナシラバード・カタン地区で身元不明のオートバイ乗り達によりCTD職員1人が殉職した他、キラ・アブドゥッラー郡セガイ地区でも警察官1人が武装集団に襲撃され殉職した。
- 26日、KP州モーマンド郡サフィTehsilタラングザイ・ババジ地区で身元不

明の武装集団からの発砲を受け、民間人1人が死亡、CTD職員2人を含む3人が負傷した。

- 28日、KP州バンヌー郡シェイカーン・ママケル地区で警察車両がミリタント達からの攻撃を受け、警察官1人が殉職、警察官3人が負傷した。その後の銃撃戦で警察は犯人2人を殺害し、約4人を負傷させた。
- 28日、KP州クーラム郡北部ニスティコート地区で地雷が3回爆発し、2人が死亡、1人が負傷した。
- KP州カラク郡バンダ・ダウド・シャー地区で地元男性1人がスパイ容疑で身元不明の武装集団に拉致された後、殺害された。
- 28日、KP州コハート郡ダラ・アダムケルTehsilトール・チャップルにある2つの検問所がミリタント達に狙撃銃で発砲され、FC隊員2人が殉職した。
- 29日、バロチスタン州パンジュゲール郡クンダ・エ・アバダン地区で住宅が身元不明の武装集団に襲撃され、家の中にいた3人が死亡した他、ほぼ同時期に同郡サラワン地区及びガルマカン地区で3件の住宅も襲撃され、2人が死亡、2人が負傷した。
同日、同州クエッタ市サリアブ・ロードの検問所がオートバイに乗った身元不明の武装集団に襲撃され、通行人1人が死亡、11人が負傷した他、クエッタ市郊外ノシャールのアグバルグにある警察署が武装集団に襲撃され、警察官1人が負傷した。
- 30日、バロチスタン州クエッタ市イースタン・バイパス付近でパトロール隊が待ち伏せ攻撃を受け、警察官2人が殉職、1人が負傷した他、ジャル・マグシ郡ガンダワTehsilのコトラ警察署が武装集団から襲撃され、襲撃犯を追跡する治安作戦の後、治安要員1人が殉職、3人が負傷した。
- 30日、KP州オラクザイ郡ドーン・シェイカーンで辺境警察隊（Federal Constabulary）隊員1人が身元不明の武装集団に拉致された。
- 31日、KP州オラクザイ郡中央部のクンディ・ムシュティ検問所でテロ攻撃が発生し、FC隊員1人が殉職した。